

平成 17 年度第 1 回京都市図書館協議会・摘録

○ 日時 平成 17 年 10 月 19 日（水） 午後 1 時～2 時 30 分

○ 場所 京都市生涯学習総合センター 3 階 第 2 研修室

○ 出席委員 [10 名中 8 名出席]

青野 京子 委員

岩永 ひとみ 委員

上田 真理 委員

桐田 襄一 委員

迫田 照男 委員

原田 憲一 委員

不破 哲 委員

山岡 祐子 委員（五十音順）

○ 傍聴人数 0 名

1 開会

- ・中嶋中央図書館長からの挨拶

2 報告事項

事務局から以下の項目について説明した。

（1）平成 16 年度図書館利用状況について

貸出冊数は 14 年度、15 年度と大幅に増加し、16 年度はその水準を維持し、過去最多の貸出となった。市民一人当たり 4.2 冊の貸出となっている。

予約受付件数は前年度比 20.0%増加し、3 年連続で飛躍的に伸びている。

（2）夜間開館の推進について

身近な生涯学習施設である図書館のサービス向上を図るため、平成 12 年度から年次計画で夜間開館を進め、平成 17 年度から岩倉、東山図書館において夜間開館を始めた。これにより地域図書館 10 館を含む計 15 館での夜間開館が実現し、現在、全行政区で夜間開館を実施している。

(3) 図書の特別整理（蔵書点検）の結果について

蔵書管理の徹底と利用者サービスの向上を図るため、平成 15 年度末に全館で蔵書点検を実施し、それ以降、毎年度実施することとしており、平成 16 年度は平成 17 年 2 月 7 日より各館で順次実施した。16 年度の不明率は 0.44%。亡失対策として、館内巡視の強化、利用者用カゴの設置、市民への協力の呼びかけ、BPS の設置等を行っている。

(4) 図書館ボランティアの導入について

市民の生涯学習の機会創出と市民とのパートナーシップによる図書館運営の推進を図るためボランティアを導入した。活動内容は書架整理及び配架をお願いしている。

(5) 子ども読書活動の振興について

子どもの読書活動を推進するため、毎月定例で読み聞かせ等のおたのしみ会を実施している。また、4 月 23 日の「子ども読書の日」を中心にさまざまな取組を行い、17 年度は講演会や絵本の原画展、「読書えはがき」の展示、読み聞かせ等のおたのしみ会を実施した。

(6) 右京中央図書館(仮称)について

平成 19 年度に地下鉄東西線の二条駅から天神川までの延伸に伴い設置する右京区の新たな拠点となる市街地再開発施設の 3 階に右京中央図書館（仮称）を設置する。右京中央図書館(仮称)は、老朽化が進む右京図書館を移転拡充するとともに、新中央図書館構想のうち、IT 化時代に対応した環境の整備と京都に関するあらゆる資料・情報を収集し、提供する「京都大百科事典的図書館」機能を先行的に実施して「京都」情報の発信拠点づくりを目指す。

3 主な意見・質問等

<平成 16 年度図書館利用状況について>

・平成 14 年度から平成 15 年度にかけて貸出冊数が急増しているが、要因は何か。夜間開館実施館を拡大したからか。

(事務局) それも一因だが、貸出冊数を 5 冊から 10 冊に増やしたことが大きいと考えている。

<図書の特別整理（蔵書点検）の結果について>

・BPS（図書貸出確認装置）とは何か。

(事務局) 貸出処理をせずに BPS を通ると図書に装着している磁気テープに反応して警告音が鳴り、無断で図書を持出すことを防止することができるものだ。

- ・ BPS を導入するのにどれくらいの費用がかかるのか。

(事務局) 所蔵している図書全てに磁気テープをつける必要があるため、その費用も含めると全館に導入するのに約 1 億円かかる。

- ・ いつまでに全館に導入するという計画はあるのか。

(事務局) 現在のところはない。

- ・ IC タグがすでに装着されている図書を購入することはできないのか。

(事務局) 出版社で導入されている IC タグは寿命が短く、図書館で使用する IC タグは耐用年数が長いものを使用する必要があるため、書店と同じものを使用することは困難な状況だ。

- ・ 醍醐中央図書館、左京図書館に BPS を設置しているのは不明図書が多いからなのか。

(事務局) 醍醐中央図書館には開館当初から設置しており、左京図書館は地域図書館の中で最も貸出冊数が多いため設置した。また醍醐中央図書館と左京図書館には自動貸出装置を設置しているのでそのこととも関係している。

<ボランティアの導入について>

- ・ 現在導入しているボランティアは管理・運営面だけだが、レファレンス等司書のお手伝いになることをすることはできないのか。

(事務局) 現在、ボランティアを導入してから 2 週間が経過しているが、大変効果があるので他の分野にも広げたいと事務局としても考えている。

- ・ ボランティアに応募された方の年齢構成はどのようなものか。

(事務局) 男性は 60 歳以上の方が多く、女性は 20 代から 70 代までの年代の方がまんべんなくおられる。

<子ども読書活動の振興について>

・「子ども読書」の「子ども」が児童だけを対象にしている印象を受けるが、普通「子ども」は18歳以下を指すので、中高生向けにも何かすべきではないのか。また学校図書館との連携も必要ではないか。公共図書館と学校図書館との連携では資料や指導の面での共有ができればと思う。全国を見渡すと公共図書館と学校図書館との連携を先進的に進めているところもあるので参考にしようと思う。

(事務局) 高校生にはなかなか図書館に足を運んでもらえず、取組も手薄になっているが、中学生については、中学生向けのブックリストを作成して中学校等に配布している。学校図書館との連携については学校協力貸出を実施し、一度に、その館の利用に支障のない限りの冊数を1ヶ月間貸出している。8月に開催した地域フォーラム・イン京都でも学校図書館との連携について取り上げたところだが、現在具体的な方法を模索しているところだ。

・学校も公共図書館には学校協力貸出でお世話になっているが、教員が午後5時までに図書館に行くのは難しい。また、教科書に添った内容の本を借りようと思っても他校も同じような進捗のためすでに貸出中で、図書館に目当ての本がないという状況もある。

・中学校では総合学習のなかで調べ学習をする際に図書館の利用をすすめている。

<右京中央図書館(仮称)について>

・右京中央図書館(仮称)ではCDやDVDを貸し出すのか。

(事務局) 貸し出す。

・図書館で鑑賞することはできないのか。

(事務局) 試聴ができるように考えている。またCDやDVDは貸し出すことを主に考えている。

・右京中央図書館(仮称)にはBPSを設置するのか。

(事務局) 設置する予定である。

・BPSを設置するお金があるならブックメールを小学校に運行させてはどうか。先生が午後5時までに図書館に行くのが難しいのだから出向く図書館になるべきだ。図書館に行く

ら本があっても先生が行けないのでは意味がない。学級文庫が充実すれば子どもが読書をする環境が整う。すでにあるものを有効活用すべきだ。

(事務局) 財政が厳しい状況のなか学校図書費は倍増している。学校図書館は公共図書館のシステムと違うので一本化はなかなか難しい。将来的には参考にしたい。

4 閉会